

第5回射水市プラスチック資源循環戦略検討会

1 開催日時

令和4年6月17日(金) 午前10時から11時10分まで

2 場 所

救急薬品市民交流プラザ 会議室1AB

3 出席者

(委員)

- ・佐伯 孝 (富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 准教授)
- ・藤井 徳子 (富山福祉短期大学幼児教育学科 准教授)
- ・竹林 浩樹 (射水市小学校長会 新湊小学校長)
- ・延澤 泰明 (ミユキ化成株式会社 代表取締役)
- ・砂原 良重 (射水商工会議所 事務局長)
- ・池田 和男 (株式会社アルビス 代表取締役社長)
- 代理 石田 康洋 (株式会社アルビス 取締役常務執行役員
経営企画本部長兼管理本部長)
- ・谷島 篤 (株式会社富山環境整備 リバース事業部長)
- ・金井 武史 (新高清掃株式会社 代表取締役)
- ・串田 伸男 (射水市環境衛生協議会長)
- ・境 信誓 (六渡寺自治会 顧問)
- ・二口 紀代人 (水辺のまち新湊常任理事)
- ・藤本 真紀 (国土交通省富山河川国道事務所大門出張所 出張所長)
- ・吉森 信和 (富山県環境政策課 廃棄物対策班長)
- 代理 的場 義典 (富山県環境政策課 廃棄物対策班 主査)

(事務局)

- ・京角 悦朗 (市民生活部 副参事兼環境課長)
- ・市井 秀明 (環境課 課長補佐)
- ・安念 孝浩 (環境課 主査)
- ・樫葉 友一 (環境課 主任)

4 欠席者

- ・松本 隆司 (新湊漁業協同組合理事兼富山湾しろえび倶楽部代表)
- ・吉久 敬治 (いみず野農協 営農経済部次長)

5 配布資料

(資料1) 射水市プラスチック資源循環戦略(素案)について

6 議題

- (1) 射水市プラスチック資源循環戦略(素案)について
- (2) その他

7 質疑応答及び意見の概要

(1) 射水市プラスチック資源循環戦略(素案)について

委員	<p>従来から取り組んでいる3R(リユース・リデュース・リサイクル)に今回Renewable(再生可能資源への代替)という言葉が基本方針加えられているが、Renewableとは、端的にいうと「リサイクルし続けることができるものに置き換えていこう。」ということ。今回の素案の中ではこのRenewableの要素がわかりづらいという印象があるが、そういった思いを込めて記載したところはあるか。</p>
事務局	<p>Renewable(再生可能資源への代替)については、13ページの化石燃料の使用抑制の方向性の2番目「化石燃料に頼らない再生材やバイオマス素材の利用促進」の内容に含んでいる。しかし、意識啓発による取組を中心に記載したため、ご指摘のとおりわかりづらい部分はあったので、示し方を検討する。</p>
委員	<p>リサイクルが進んでいかない一つの要因として、身近にあるプラスチックの中にはリサイクルしづらい素材(材質)のものが混在していることにあると思っている。収集やリサイクルの方法だけに問題があるのではなく、製品として生み出されていくときにリサイクルすることを前提にした製品設計がされていないことも要因の一つである。一例をあげるとするならば、一つの啓発活動という意味でマイバッグというのは非常に効果的であったが、マイバッグをリサイクルしてまたもとに戻すことができるかという視点に立つと、非常に多くの素材を使用して作られているため、リサイクルとしては厄介な製品として捉えることができる。この点については市民にとってわかりづらいと思うので、Renewableという新たな視点が入っているということをしっかりとわかるように伝えないといけない。その部分が足りないように感じる。</p> <p>これからRenewableという考え方を含めて検討していこうというのであれば、伝え方もあると思うが、視点(取り組むポイント)を上手くとらえていかないとミスリードが起こる。単に再生材を</p>

	<p>活用することに留まるようであれば、いままでやっていた啓発とあまり変わらないように聞こえる。</p> <p>そもそもリサイクルしやすいものはどこであろうと回収してもいいのではないかと個人的には考えている。そういう意味において市の取組であるプラスチック容器包装の回収ステーションの常時設置は非常に興味深い活動である。ごみの捨てる場所が増えることでポイ捨て等が減少できて、海洋ごみ問題に対しても波及効果が出てくるかもしれない。また、Renewable という視点を基本方針に取り入れたというのは、射水市のプラスチック資源循環戦略という位置づけにおいても大変重要な意味があると思うので、きちんと狙いを見出すということは必要なことだと思う。単に啓発活動という位置づけに留めずに、この点は丁寧に表現してほしい。</p>
事務局	<p>今ほどいただいた意見を基に、修正させていただく。</p>
委員	<p>「見える化」という表現が使用されているが、市民に示していくようなものを小学生にわかる内容で作っていただけると、おそらく市民全体に対しても理解しやすい内容になるのではないかと思います。</p> <p>また、13 ページの「化石燃料に頼らない再生材やバイオマス素材の利用促進」の項目に記載のある「見える化」については、具体的に言うとどういったものを指しているのか。</p>
事務局	<p>7 ページで示させていただいている「ペットボトルキャップ再生材とバイオマスプラスチックを使用したポリ袋の作成事業」も児童の皆さんが集めたペットボトルキャップがリサイクルされて、新たな商品に生まれ変わりそれを手にしていただくという「見える化」の一つと考えている。この事業においてはキャップからポリ袋に生まれ変わる工程を A3 用紙 2 枚にまとめたものを各小学校に掲示いただいております、同工程を動画にまとめたものも現在作成中である。</p> <p>また、「プラスチックを代替素材に変えることでプラスチックの使用量を何 t 削減できた。」「それに伴い温室効果ガスを何 t 削減できた。」といった情報も併せて発信していきたいと考えている。</p>
委員	<p>温室効果ガスの削減についてはどれだけ削減量を示されてもわかりづらい項目であるので、金額に直してもらおうとわかりやすい。</p>

事務局	<p>小学４年生に対して環境教育行う「いみず環境チャレンジ10事業」では、「経費としていくら削減できた。」「サッカーボール何個分温室効果ガスを削減できた。」という示し方をしているので、それらも参考にして、検討していきたいと考えている。</p>
委員	<p>プラスチックの製品が作られる工程等を示すことは良いことであると思うが、コスト的に考えるとプラスチックは高分子のものですのでリサイクルはコスト的に合わない。(本戦略の中にも)プラスチックの使用削減等が示されているが、ビジネスの拡大のために事業をやっていく上で、プラスチック使用量を抑制していくということは、事業者にとっては経済活動に反することだということを知ってほしい。</p> <p>かなり難しい課題であると思うが、幼少期から、リサイクルと経済効果は別であることを伝えていく必要がある。</p>
事務局	<p>児童にどのように伝えるかという点では検討が必要だが、経済的な面も踏まえ、環境問題を考えることができる示し方を検討したい。</p>
会長	<p>子どもたちに示すときに、CO2がこれだけ削減できる。費用がこれだけ下げられるというような良い面だけではなく、「リサイクルするにあたって、どれだけの費用が掛かっているのか。」「海岸漂着ごみ清掃は現在ボランティアで実施いただいているが、時給換算するとどれだけの費用が人件費としてかかっているか」ということなど全部教えてあげて、その上で子どもたちが自分で判断することが大事であると思う。子どもたちは素直に先生の言っていることを受け入れるが、自分でかみ砕いていくと何かおかしいのではないかと思う瞬間には情報がたくさんあった方が良く思う。今の小学生はインターネット等から情報を得ているが、間違っている情報もたくさんあるので、正しい情報を最初に入れてあげるといことは重要であると思う。</p> <p>現状リサイクルはコスト的には合わなくても、やらざるを得ないことは世の中にはたくさんある。その点においては、市からも補助を入れられればもっと良いループになる。そのような情報も伝えていければ良い。</p>
委員	<p>伝え方は色々あると思う。プラスチックは決して悪いものではなくて、我々の生活を豊かにしてきたというのは間違いない。一</p>

	<p>方で、リサイクルという視点になると向き不向きな素材があるのが事実である。それをどうわかりやすく伝えるかということが重要と思う。例えば、食品には賞味期限・消費期限の期限表示があるが、食品は酸化等をさせないためにプラスチック容器や包装等にバリア機能を持たせている。その多くが多層構造（複数の素材で構成）になっているため長期の保存が可能になっている。これを一つの素材だけで作ると、バリア機能が弱まるので食品が一週間持たない等の不便なことが起きる。しかし、(食品でいう)腐ってほしくない等の消費者側のニーズもある。そのニーズに応えるために、企業はいろんなプラスチック製品を開発し、凄く便利な世の中になった。一方でリサイクルには不向きなものも広がってしまった。リサイクルを進めていくためには、この不便さを市民も一定程度許容しなければいけない。</p>
事務局	<p>いただいたご意見を整理し、反映させていただきたいと思う。</p>
委員	<p>社会的なコストを適切に負担して、適切に社会を作り出していくといった啓蒙や、コストを具体的に認識していくということは必要であると感じた。食品の業界でもエシカル消費といった考え方が広がっている。消費者が安く便益を得るために、不当な労働によって作られた農作物を選ぶのではなく、少しコストが高くても、地産のものを選び、産地からの輸送距離をできるだけ小さくすることで、輸送時のCO2排出量を減らしていくといったようなエシカルな考え方である。販売におけるトレイ容器においても、バイオマス素材を取り入れたり、紙に代替したり、色んな工夫をするとそれなりにコストがかかる。それを消費者の皆様が一定程度負担してもよいというふうに思えるかということが大事である。社会の考え方について、コストをそのものの値段だけで考えるのではなく、容器包装等の処理をするまでの全体のコストというかたちで考えるように変われば、(これらの問題に対して)対応がしやすくなるのではと思う。</p>
副会長	<p>環境教育について具体的な事例を紹介させていただきたい。コストの認識というと、小学校4年生(10歳)という段階では、純粹で色んなことを考えることができる年齢である。その年代に対して環境チャレンジ10というかたちで環境教育を実施すると、ペットボトルの方が安いけれど、ビン入りのものを買う方が、地球への寄付、地球を応援することにお金を払っているということ</p>

	<p>になるんだね。」「中国から来た野菜の方が安いけれど、高くても地元で採れたものを買えば、地元や地域の環境を守ることに繋がるんだね。」と子どもたちなりにしっかりと本質を理解している。地道なことかもしれないが、教育の力は強い。</p> <p>「見える化」については、「今月の射水市民のエコ活動で、これだけの節約ができた」といったような情報が発信されたら、子どもたちは張り切って活動に励んでくれるのではないか。</p> <p>Renewable については、木育という視点も良いのではと思う。プラスチックのおもちゃだけではなく、富山県産材を使った木のおもちゃ等を通して木と触れ合おうという木育が富山県内で力を入れているので、木育についても絡めることができれば良いのではないか。</p>
会長	<p>市としてどれくらい節約できているかといった情報発信がタイムリーに行われていると、子どもたちのやる気に繋がると思う。それが波及して県全体にそのような取組が広がればより良い。</p> <p>13 ページの「化石燃料の使用抑制」に関する取組アクションについて、他の方針に比べて薄く感じる。製造の面での、取りまとめが手薄である。例えば、「製造事業者においてリサイクルしやすい素材の開発を頑張ってほしい。」ということをして市内に対して要望していくのは難しいかもしれないが、業界全体としてこのような方向性で検討してほしいというものは示せるのではないか。例えば、「高機能だけれどもリサイクルしやすい素材にする。」「リサイクルではなくて何度もリユースできるものを検討する。」等である。また、製造においては原材料製造や商品製造のそれぞれの面で記載できると思う。市内にない事業者がいる等の理由で書いていないところもあると思うが、示すことができるのであれば示せば良い。</p>
事務局	<p>アクションの案については、市内の規模で考えると利用、消費の面に絞られたかたちとなった。市から広げていくという意味で、事業者としてこのように考えていってほしいというものを示すかたちで検討したい。</p>
委員	<p>射水市の焼却システムでは、可燃物に含まれるプラスチックごみについては、エネルギー転換をしているのか。</p>
事務局	<p>焼却場内に発電機を設けて発電しており、場内の自家処理と余</p>

	<p>剰分については売電している。</p>
委員	<p>分別せず全てエネルギー転換にもっていくという考え方はないのか。</p>
事務局	<p>現在、本市においては容器包装のみをプラスチックの分別対象としているが、プラスチック新法においてはプラスチック製品についてもリサイクルの対象としている。本市としてもプラスチックを一括してリサイクルしていく方向に向かっていくと想定している。そのため、分別したプラスチックを燃えるごみとして焼却処分することは考えてはいない。</p>
会長	<p>各ページの今後の展開については、この検討会が終了した後も、2030年に向けて、出来ることは実施していくということによいか。</p>
事務局	<p>2030年に向けて、実施可能なものから展開していく。</p>
会長	<p>それらの取組の結果について、市民に対して公表することで、興味・関心も生まれてくると思う。情報をフィードバックしていただけたらと思う。</p>
委員	<p>第1章のまとめ方が、プラスチックが悪者であるように感じてしまう。プラスチックは私たちの生活において重要な役割を果たしている。そういったプラスの面も記載いただきたい。「はじめに」というかたちで書いてもらうなど。それこそSDGsで掲げるパートナーシップで目標を達成しよう。というところで、各主体が組んでやっていきたいと思いますという方向性が見えてくるのではないかと思います。また、「はじめに」があるのであれば「おわりに」というところで、課題を受けて市としてどのように取り組んでいきたいということを整理していただければと思う。</p> <p>この対象期間の記載では2030年がゴールのように受け取ってしまうので、それ以降も続けていくというところも記載してほしい。</p>
事務局	<p>いただいた意見を基に示し方を検討させていただく。</p>
会長	<p>市が実施していく取組についても容器包装回収ボックス設置についても民間事業者と協力して実施されている事業であるので、</p>

委員	<p>いつかの段階で市が関与しなくても、民間事業者が採算を取れるかたち、または、社会貢献というかたちでやっていってもよいと思えるようなかたちに改良を徐々に加えていってもらえれば、2030年にもし市が手を離したとしても、取組は継続していけるのかなと思う。</p> <p>13ページの「ワンウェイプラスチック」については「使い捨てプラスチック」という意味であるが、「使い捨て」という概念はそれぞれなので、人によっては「ペットボトルも使い捨てプラスチックとなってしまうが、特にこの製品が多いというものはあるか。どのような製品を想定して示しているか。</p>
事務局	<p>この点については、プラスチック新法で示されている10品目にあるプラスチック製のスプーンやフォーク等のプラスチックカトラリー等を想定して示している。</p>

(2) その他

会長	<p>その他の議事について事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>今後の日程について説明する。委員の皆様からいただいた意見を整理し反映した「射水市プラスチック資源循環（素案）」について9月市議会への報告を経て、9月末に策定予定としており、最終のとりまとめは会長にご一任いただきたいと思いますと思うがよいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>それでは最終案については、こちらで事務局案を作成し会長に一任とさせていただきます。</p>